

『復興と未来を担うグローバルリーダー育成事業』における 地元先端企業による講演会が行われました

平成28年5月27日（金）、本校南体育館に於いて、本校卒業生である株式会社アイザック企画部長 馬場法孝氏を講師にお迎えし「グローバルな人、ローカルな人、グローカルな人」と題してご講演いただきました。

前半は東北初のロボット会社であるアイザックの会社紹介に始まり、ロボット業界の現状や、ロボット開発における連携体制についてお話しいただきました。会津中央病院や会津大学など身近な地元の機関との連携でロボットが開発されているという内容に、生徒達は興味を持って聞き入っていました。また、実際に中央病院で試験運用中である移乗・移動ロボット『Keipu』についても詳しくご紹介いただきました。

後半は馬場氏ご自身のご経歴のお話から、「グローバル」「ローカル」そして「グローカル」とは何かを生徒に考えさせるお話をしていただきました。

最後に馬場氏は「絶対に夢を叶える方法」を生徒達にアドバイスされ、「たくさん夢を持って、たくさん叶えてください。」と締めくくられました。



以下に生徒の感想の一部を掲載します。

初めはグローバルに関係あるのか？と思ってしまったアイザックのロボット事業は、グローバルの先を見据えた、グローカルであったことに気がきました。この講演で、「人類」にとって有益であるように考え、ロボットを開発するというグローバルもローカルも超えたグローカルの存在と、それを意識することの大切さを知りました。また、地元企業の事業内容を詳しく知ることができ、新しいことに触れることができた1時間でした。

（1年 女子生徒）

アイザックのロボットの中でも印象に残っているのは、『Keipu』だ。Keipuはまず、患者さんに使ってもらって意見をとり、次に医師や看護師と相談しながら構造を練り、試作品を作り、また患者へというサイクルでできていた。このことはとても素敵で大切なことだと私は思った。決して技術のみで進んでいくことなく、対象となる人々から技術へのフィードバックがなされているからだ。このサイクルがあるからこそ、私たちが本当に必要としている『人のためのロボット』が生み出されているのだと思う。『Keipu』の特長として、通常の車イスよりも立っている人と目線が合わせやすく、コミュニケーションがとりやすい事が売りだそう。私は細かな心遣いに感激した。技術者というのは高い技術力とともに、相手を考える思いやりの心も重要な要素なのだと思った。

(1年 女子生徒)

「グローバル」とは世界からその時に求められているものを、自分の地域から国、国から世界へと広げていく状態のことであるというのが私の答えだ。その例がアイザックなのである。「グローバルな人」と言えば実現が困難なようにも思えるが、「グローバルな人」なら、自分が今いる場所を軸として、徐々に視野を広げていけば、実現可能なようにも思える。だから、今の社会の流れである「グローバル」にとらわれすぎず、まずは身近なところに目を向けていきたい。

(1年 女子生徒)

「グローカリゼーション」のリーダーになるために必要なことは、他人をどれだけ自分の世界に引き込むか、他人に自分に対してどれほどの興味を持ってもらえるか、ということだと思う。グローバルリーダーになるには、大きな夢を持ち、その夢に向かって共に努力してくれる協力者を得ていくことが必要だと考えました。今回の講演を聴き、「グローバル」「グローバルリーダー」について新たな視点で考えることができた。

(1年 女子生徒)

会津にこんな最先端の技術を研究している会社があることを知り、驚きました。介護、医療という日本が抱える問題を解決するために様々なロボットの技術を利用していくという未来の形を垣間見たような気がします。また、多くの機関や会社などとの連携によってロボットを開発しているということから、大きな物事を成し遂げるためには協力がやはり必要であり、友好的な信頼関係をコミュニケーション能力によって築き上げていかなければならないと改めて感じました。

(1年 男子生徒)